

VISION2035

エネルギーから未来を拓く
～九州とともに、そして世界へ～

九電グループは、“ずっと先まで、明るくしたい。”という思いのもと、持続可能な社会への貢献と九電グループの更なる進化を目指し、グループ一体で取り組んできました。

近年、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。このような中においても、九電グループが事業活動を通じて九州とともに更なる成長を目指すため、「九電グループ経営ビジョン2035」を策定しました。

このビジョンでは、九電グループが中長期的に社会で提供したい価値を改めて描き、その過程として2035年における“ありたい姿”を明確化。その実現に向けた経営目標やグループ重点戦略を策定しました。

グループの力を結集し、“エネルギーから未来を拓く”ことを目指して、九州から日本、そして世界を舞台に更なる高みに進みます。



九電グループ経営ビジョン2035特設サイト

「経営ビジョン2035」の位置付け



指標		2030年度	2035年度
Ⅰ.財務目標	連結ROIC	3.3%	4%程度
	連結経常利益	1,800億円	2,000億円以上
Ⅱ.環境目標	サプライチェーンGHG排出原単位	0.36 kg-CO ₂ /kWh(2013年度比▲50%)	0.29 kg-CO ₂ /kWh(2013年度比▲60%)
	九州の電化率	家庭部門: 70% / 業務部門: 60%	家庭部門: 75% / 業務部門: 65%
Ⅲ.人材目標	従業員エンゲージメントレーティング※1	AA	AA
	一人当たり付加価値※2	1.5倍	2倍

※1 (株)リンクアンドモチベーションが提供するエンゲージメントサーベイにおけるレーティング
※2 2021年度比。売上高から外部購入価値(燃料費や委託費等)及び減価償却費を差し引いたもの(経常利益+人件費+賃借料+租税公課等+金融費用)

「経営ビジョン2035」策定の背景

九電グループを取り巻く環境は、カーボンニュートラルの進展やエネルギーニーズの変化、地政学的リスクの顕在化、急速な技術革新等、かつてないスピードで変化しています。これらの環境変化は、私たちに新たな機会をもたらす一方で、従来の延長線上では対応することのできない課題も突きつけています。

そこで私たちは今回ビジョン策定にあたり、現在の事業環境から2035年時点の環境変化を予測する“フォアキャスト”の視点と、2050年という長期的な事業環境の変化から逆算し、2035年時点で必要なものを見通す“バックキャスト”の視点から検討を行いました。

また、策定にあたっては、経営層のみならず若年層や管理職層等の多層的な視点を取り入れ、グループ一丸となってビジョンを作り上げました。

2025年現在の提供価値

2019年に策定した「九電グループ経営ビジョン2030」のもと、「エネルギーサービス事業の進化」「持続可能なコミュニティの共創」「経営基盤の強化」をありたい姿実現に向けた戦略として取り組みを推進。原子力4基の安定稼働や成長事業の拡大等、着実に各施策を進めてきました。また、カーボンニュートラルや社会のデジタル化に伴う対応等、価値提供の幅も広がっています。

2050年九電グループの提供価値

今後は人口減・過疎化や世界的な資源不足、地球温暖化への対応等、より長期的な視点が求められます。

この観点から、九電グループが果たす役割は、単なる電力供給にとどまるべきではないと考えています。再エネの主力電源化や地域課題の解決、デジタル社会への対応等を通じて、変化の激しい時代においても、社会の持続的な発展に貢献する存在を目指します。

フォアキャストとバックキャストの 2つの視点から2035年に目指す姿を描く

